

更新日 7月13日

都立新島高等学校

# ケッチのコメディーショー +パントマイム教室 ～東京都 子供を笑顔にするプロジェクト～

ハイライト:

- ・7月8日に実施した特別授業の報告。
- ・ケッチさん(元が～まるちよば)、小島屋万助さんの2名が来校。
- ・全校生徒が参加し、コメディーショーと講演、パントマイム教室を実施。
- ・卓越したフィジカルパフォーマンスを体験し、生徒も楽しそうでした。

## ケッチが新島にやってきました！

東京都教育委員会が主催する「子供を笑顔にするプロジェクト」事業の一環で、新島高校では『ケッチのコメディーショー+パントマイム教室』が実施されました。

長引くコロナ禍による感染症対策の観点から、学校生活には様々な制約があります。多くの学校行事も延期・中止になり、子供たちが日常的に話したり、笑い合ったりする時間も減ってしまいました。

同プロジェクトは、都内の小中高にアスリートやアーティストが訪問し、講演やパフォーマンスを披露することで、子供たちを笑顔にする取組です。新島高校では、体育科の先生とのご縁で、元が～まるちよばのケッチさんと、師匠である小島屋万助さんをお招きすることができました。



講師 ケッチさん(元が～まるちよば)  
フィジカルコメディアンとして活躍中。  
写真は東京都こどもスマイルムーブメント  
参画企業・団体等紹介ページ MG企画から

## ケッチさん プロフィール

1999年『が～まるちよば』を結成。世界35か国にてパフォーマンスを披露。

2019年『が～まるちよば』としての20年間の活動に終止符を打ち、再びソロ活動に転じてからは、ヨーロッパを拠点に即興演劇、クラウニングなどを学び直し、アーティスト活動だけでなく、演出やワークショップの活動も始める。2020年、新型コロナウイルスの影響で緊急帰国したことをきっかけに、日本でのソロ活動を本格的に開始。

ーソロ活動実績例ー

- ・ソロ舞台「ケッチスケッチ ワールドプレミア」  
雲仙市国見町文化会館他 2021年4講演
- ・イギリス地元劇団のフィジカルコメディアン 演出  
イギリス、ブライトン  
2022年5月23日～27日
- ・ARTIST in PLAZZA 出演  
2022年6月1日～5日

# ケッチのコメディショー +パントマイム教室



公演中の小島屋万助さん。  
納豆が引く糸まで見える、超絶技巧。

## 小島屋万助さん 公演

第一部は、小島屋万助さんの公演から始まりました。ぽつんと椅子が置かれただけの舞台上に現れた小島屋さん。公演のタイトルも事前説明もない中、生徒たちは「何をやるのだろう」と複雑な表情。

壇上で小島屋さんは、背伸びをして窓を開ける等のモーニングルーティーンをパントマイムで表現。その後、朝食のご飯を茶碗にこんもりと盛り付け、納豆をかき混ぜ、はふはふと掻き込む。うーん、もう一杯食べようか。またご飯をよそい、糸をよく引く納豆を乗せ……一言も発することなく、演技だけで状況を伝える彼を見続け、会場は「なるほど、そういうパフォーマンスなのか」と腑に落ちたような雰囲気。

しかし、どうも様子がおかしい。冷蔵庫から取り出した梅干しをいくつも頬張り、マヨネーズを吸うように容器から飲み始め、それでもまだまだ食べたりない。痛めたお腹を抱えてトイレに向かったのに、トイレットペーパーをうどんのようにすすり始める。違和感はエスカレートし、さっき開け放った窓にまでかじりつき、ガリガリと食べだす始末。拳句の果てに唯一そこにある実在の椅子まで…？ となった瞬間、公演終了。

公演後の休憩中、演技に見入っていた生徒たちは胸をなでおろし、楽しそうに互いの解釈を話し合っていました。



ケッチのコメディショー。生徒も壇上で即興劇に参加。会場全体が一体となる。

## 圧巻のフィジカルパフォーマンスに引き込まれる

第一部メインは、ケッチのコメディショー。颯爽と舞台上に登場したケッチさんですが、会場の熱気が感じられないと不満げな表情。二度のリテイクの後、大きな拍手で迎えられ、満面の笑みのケッチさん。いよいよ、ショーが始まります。

ケッチさんのパフォーマンスは、ステッキや旅行鞆、モップやボールといった小道具を使うものも多くあります。ステッキそのものに意思があるかのように引きずられたり、掃除用のモップに振り回されたり。自由自在に動かしていた旅行鞆が

急に空中で止まって動かなくなったときには、会場内から自然と拍手が沸き上がりました。また、旅行鞆が動かなくなったからと生徒を壇上に呼んで持ち上げさせたり、ボールを使った手品のようなパフォーマンスで観衆を盛り上げたり。

次は何をやるのか、自分が呼ばれたらどうしようハラハラしながら観賞する生徒たち。会場全体がケッチさんに引き込まれていく雰囲気は、筆舌に尽くせぬ快感でした。



ケッチさんによる講演。短時間のトークにも、抱負なジェスチャーが垣間見える。

## 信じたこと、やりたいことを続けよう

Q. どうしてこの道を選んだのですか。

A. きっかけは高校の文化祭で披露したパフォーマンスが観衆にウケたこと。風のパントマイムをした際に、本物の風がカーテンをなびかせ、お客さんと盛り上がったことが印象深い。

下積み時代も当然あった。そんなときも、信じたこと、やりたいことを続けてきた。これは世間に評価されるようになってからも変わらない。

Q. 心が折れそうになったことはありますか。

A. 仕事が多く、好きなパフォーマンスが嫌になりかけた。そのときは外国旅行でリフレッシュして、新たな気持ちで次の仕事に臨んだ。気持ちがくじけそうなときは、早めの対応が大切だと思う。

Q. 訪問した国のうち、特に印象的だった国は。

A. ニュージーランド。屋外パフォーマンス後で汗だくの自分をハグしてくれた。あとイギリスも。

## 「最高のお客さんだよ」

第二部はバントマイム教室でした。

代表的なバントマイムの「壁」「ムーンウォーク」「綱引き」を教わりました。

教えてもらったバントマイムのコツはふたつ。

一つは同化。これは、大きい、小さい、平たい、膨らむ、伸びる、縮むといった要素を、自分の体全体で表現すること。

もう一つは動きの順序。「手が引かれて→胸が動く」と、「胸が動いてから→手を引く」のでは、表現できるものが変化する。これを肩や肘、胸、腹と細分し、思い描くモノを伝えられるように。

人前で披露するレベルのパフォーマンスには、想像以上に多くの鍛錬が必要なのだと改めて感じました。

また、演技の質を上げる要素として、「最高のお客さんがいると思うこと」を語ったケッチさん。

評価してくれる相手を意識して、自分にできる最高のパフォーマンスをする。『緊張したらお客さんをジャガイモだと思え』とさえ言われる中、正反対の考え方で心を鼓舞し、プレッシャーを踏み台に高く飛ぶ。

その境地は、まさにプロフェッショナルです。



「壁」のバントマイム。手の弛緩と緊張、身体を横にずらすタイミングで見えない壁を表現する。

## バントマイム教室中の生徒たち



ケッチさん、小島屋万助さん、  
企画に携わった皆様、  
ステキな時間をありがとうございました！



渾身の「エスカレーター」

